

8. グループ・メヒコ社(Grupo Mexico SA de CV)

1. 企業概要

本社	メキシコ・メキシコシティー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬、鉄道
従業員数	23,769 人
決算日	12 月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ アサルコ社 (Asarco Inc.: 100%) ・ GMM 社 (Grupo Minero Mexico SA: 98.8%) ・ SPCC 社 (Southern Peru Copper Corp.: アサルコ社権益 54.2%)

2. 財務状況 (peso million)

	2001 年	2000 年	1999 年
売上高 Ventas netas	27,650	35,013	18,769
当期利益 (Pérdida) utilidad neta consolidada del año	(2,579)	3,349	2,227
資産 Activo	78,952	83,540	91,726
流動資産 Activo circulante	11,483	15,151	21,568
負債 Pasivo	48,022	48,703	44,799
流動負債 Pasivo circulante	14,688	11,773	9,252
株主資本 Inversión total de los accionistas	30,930	34,836	40,955
探鉱費 Exploration expenditure (US\$ million)	17.5	29.8 ¹	31.9 ¹

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移²

	2001 年	2000 年	1999 年	2001 年の 世界シェア
銅鉱石 (000 t)	890.4	915.0	394.0	6.6 % (4 位)
亜鉛鉱石 (000 t)	194.8	224.6	174.1	2.2 % (10 位)
鉛鉱石 (000 t)	38.2	87.8	42.0	1.1 % (15 位)
金 (kg)	1,138	1,312	912	-
銀 (t)	687	743	548	3.7 % (4 位)
モリブデン (000 t)	13.9	15.8	8.0	10.6 % (3 位)
銅地金 (000 t)	1,039.9	1,002.3	325.9	6.8 % (4 位)
亜鉛地金 (000 t)	107.0	105.9	99.6	1.2 % (21 位)

4. 沿革

グループ・メヒコ社の前身である IMMSA 社 (旧社名 ASARCO MEXICANA 社) は、65 年、アサルコ社のメキシコ資産を分離して設立された。99 年、グループ・メヒコ社は、アサルコ社とサイプラス・アマックス社 (Cyprus Amax Minerals Co.) をめぐる激しい合併・買収合戦を繰り広げ、グループ・メヒコ社がアサルコ社、フェルプス・ドッジ社がサイプラス・アマックス社を買収することで決着したが、この結末は歴史的に見れば、グループ・メヒコ社にとって親会社と子会社の立場を逆転した再合併ということになる。

¹ ニューヨーク連邦準備銀行の各年の平均レートを用いて計算した。1999 年:9.553 Peso/US\$, 2000 年:9.459 Peso/US\$。

² 銅鉱石、亜鉛鉱石、鉛鉱石、銀の 1999 年の生産量には、アサルコ社買収後のアサルコ社の生産分を含む。モリブデン、銅地金、亜鉛地金の 1999 年の生産量は、アサルコ社分を含まない。

1899年、米国に設立されたアサルコ社（American Smelting and Refining Co.：1975年にAsarco Inc.と社名を変更）は、1901年にいち早くメキシコにおける鉱山経営を開始した。第二次大戦後、自社製錬所の鉱石確保と戦後の銅需要拡大に対応するため、また鉱山業の高い収益性を背景として本格的に鉱山開発に進出、52年、フェルプス・ドッジ社などと共にペルーにおける鉱山開発の拠点としてSPCC社を設立し、メキシコ資産と併せて中南米での基盤を確立した。

しかし、61年から始まったメキシコ鉱業の国有化・民族化の動きに巻き込まれ、65年、メキシコ民族資本51%のASARCO MEXICANA社がアサルコ社のメキシコ資産を分離して設立された。同社は74年にIMMSA社（Industrial Minera Mexico SA de CV）と社名を変更し、アサルコ社の権益は34%に縮小した。さらに78年、Mexican Controlling Groupによって100%メキシコ民族資本の持ち株会社GIMM社（Grupo Industrial Minera Mexico SA de CV）が設立され、アサルコ社はGIMM社の子会社として新たに設立されたMEDIMSA社（GIMM社権益68.8%、アサルコ社権益28.3%）に権益を封じられることとなった。

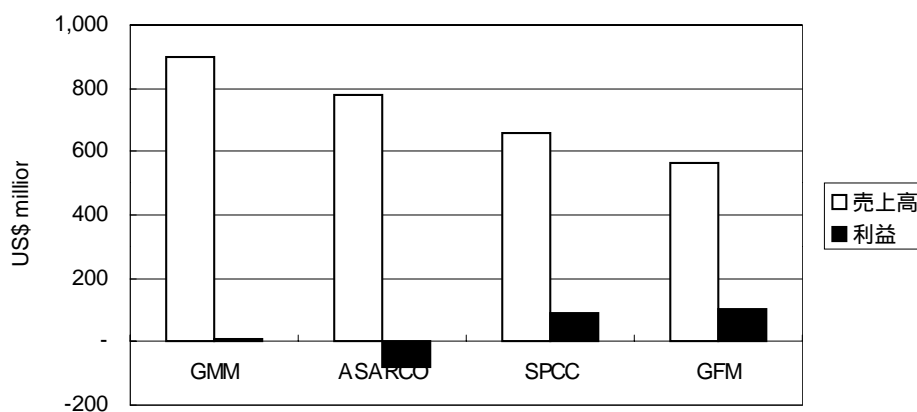
その後、GIMM社は88年の公開競売によってメキシコ政府からMexicana de Cobreの権益92%を取得、90年にMexicana de CobreとAcec Union-MinereのコンソーシアムによりMexicana de Cananeaの権益を取得するなど積極的な事業展開を図り、94年には新たに持ち株会社グループ・メヒコ社（GIMM社権益74%、アサルコ社権益23.6%（当時））を設立してMEDIMSA社をその傘下においた。さらに97年、経営体質強化を目的として旧メキシコ国有鉄道Pacifico-Norte railwaysおよびChihuahua-Pacifico railwaysの経営権を取得し、事業の多角化を図った。

グループ・メヒコ社とアサルコ社の関係は、97年にアサルコ社がグループ・メヒコ社の権益を全て売却することでいったん途絶えたが、98年にグループ・メヒコ社がアサルコ社の権益9%を取得、そして99年、同社はアサルコ社を100%子会社化するに至った。

5. 事業内容

グループ・メヒコ社の鉱業部門は、2000年末に米国に設立した子会社アメリカ・マイニング社（Americas Mining Corporation: AMC）の傘下に、GMM社、アサルコ社、SPCC社を置き、事業を展開している。GMM社は、IMMSA部門（Industrial Minera Mexico SA）、Mexcobre部門（Mexicana de Cobre SA）、Mexcananea部門（Mexicana de Cananea SA）において、事業を実施している。また、Grupo Ferroviario Mexicano社（GFM）を通して旧国有鉄道の経営に参画している。

2001年の部門別売上高と利益



利益は Operating profits

(1) 銅

メキシコ（GMM社）、米国（アサルコ社）、ペルー（SPCC社）において、銅鉱山の経営及び製錬事業を行っている。

GMM社は、IMMSA部門にチャルカス（Charcas）、サンタ・バルバラ（Santa Bárbara）、サン・マルティン（San Martín）の3鉱山及びサン・ルイス・ポトシ（San Luis Potosí）溶錬所を有し、Mexcobre部門にはラ・カリダー（La Caridad）鉱山及び製錬所、Mexcananea部門には、カナネア（Cananea）鉱山を有している。

アサルコ社はアリゾナ州に複数の鉱山からなるミッション・コンプレックス（Mission Complex）、レイ鉱山、シルバー・ベル鉱山を有し、ハイデン溶錬所で粗銅を、アマリージョ製錬所で銅地金を生産している。

SPCC社はアサルコ社が54.2%の株式を保有し、首都リマの約1,000km南東にトケパラ（Toquepala）鉱山及びクアホネ（Cuajone）鉱山を経営している。また、太平洋沿岸の都市イロ（Ilo）に製錬所を有している。イロ製錬所では、トケパラ、クアホネ鉱山の精鉱のほか、買鉱鉱石も製錬している。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
ラ・カリダー（メキシコ） La Caridad	95.5	1,385.4	OP	0.34%	161千t
チャルカス（メキシコ） Charcas	100	72.6	UG	0.46%	23千t
サンタ・バルバラ（メキシコ） Santa Bárbara	100		UG		
サン・マルティン（メキシコ） San Martín	100		UG		
カナネア（メキシコ） Cananea	97.4	5224.1	OP	0.42%	122千t
ミッション・コンプレックス（米国） Mission complex	100	203.8	OP	0.59%	242千t
レイ（米国） Ray	100	759.6	OP	0.52%	
シルバー・ベル（米国） Silver Bell	75.0	243.2	OP	0.31%	
トケパラ（ペルー） ³ Toquepala	54.2	2,390.6	OP	0.34%	123千t
クアホネ（ペルー） Cuajone	54.2	1,243.8	OP	0.63%	165千t

³ トケパラ鉱山とクアホネ鉱山では表中に生産量に加えて、両鉱山合わせて54千トンのSXEWによる銅生産がある。

2001 年主要権益保有製錬所及び鉱山による地金生産

オペレーション名	権益 %	粗銅生産量 千 t	地金生産量 千 t
ラ・カリダーSX/EW (メキシコ) La Caridad SX/EW	95.5	-	21
ラ・カリダー製錬所 (メキシコ) La Caridad Smelter/Refinery	95.5	317	257
サン・ルイス・ポトシ溶錬所 (メキシコ) San Luis Potosí Smelter	100	31	-
カナネア SX/EW (メキシコ) Cananea SX/EW	100	-	40
レイ SX/EW (米国) Ray SX/EW	100	-	47
シルバー・ベル SX/EW (米国) Silver Bell SX/EW	100	-	19
ハイデン溶錬所 (米国) Hayden Smelter	100	199	-
アマリージョ精錬所 (米国) Amarillo Refinery	100	-	325
トケパラ SX/EW (ペルー) Toquepala SX/EW	54.2	-	54
イロ製錬所 (ペルー) Ilo Smelter/Refinery	54.2	328	277

- ・ SPCC 社は、1996 年から拡張・近代化計画 (Expansion and Modernization Program) を実施中で、同社の銅生産能力を 2004 年までに 40 万 t 以上 (900 百万ポンド以上) にあげることを計画している。これまでに、クアホネ鉱山で選鉱場の拡張により、130 百万ポンド/年の銅生産能力の拡大 (1999 年、245 百万 US\$)、トケパラ鉱山の SX/EW 設備の拡張 (第 1 期: 1999 年、第 2 期: 2001 年)、トケパラ鉱山の選鉱場の拡張 (2002 年、処理 69.5 百万 US\$) などが終了している。
- ・ これ以外に、クアホネ鉱山のリーチング設備の拡張工事が進行中である他、SPCC 社はイロ製錬所の近代化を計画しており、これは生産性の向上に加えて、ペルーの環境規制にも対応しようとするものである。
- ・ 現在、SPCC 社はアサルコ社が 54.5% の権益を有しているが、アサルコ社の財務改善のために、SPCC 社の権益を親会社である AMC に売却する計画である。しかし、米国司法省は、アサルコ社がこれまで操業してきた鉱山の環境対策を理由に売却に難色を示している。
- ・ ミッション鉱山は銅価格の低迷を理由に 2001 年 8 月から減産を実施し、2002 年 1 月から更なる減産を実施している。これにより、2000 年 11 月の生産量と比較して、61% 減産となっている。加えて、2002 年 10 月、アサルコ社はミッション鉱山の閉鎖を検討していると発表した。また、2001 年 11 月にアマリージョ精錬所の 29% の減産も発表している。

(2) 鉛・亜鉛

IMMSA 部門及びアサルコ社がグループ・メヒコ社の鉛・亜鉛を生産している。

IMMSA 部門では、銅も生産しているチャルカス (Carcas)、サンタ・バルバラ (Santa Bárbara)、サン・マルティン (San Marín) の各鉱山のほか、鉛・亜鉛鉱山であるサンタ・エウラリア (Santa Eulalia)、ベラルデーニャ (Velardeña)、ロサリオ (Rosario)、タスコ (Taxco) の各鉱山を保有する。これらの鉱山で生産された精鉱は、サン・ルイス・ポトシ亜鉛製錬所で地金にされるほか、輸出されている。

アサルコ社は米国テネシー州にインメル (Immel)、ヤング・ニュー・マーケット (Young

New Market)、コイ (Coy) の各亜鉛鉱山を保有している。

2001 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量
IMMSA 部門 (メキシコ) IMMSA	100	72.6	UG	4.44% Zn 1.17% Pb	149 千 t Zn 29 千 t Pb
アサルコ社 (米国) Asarco	100	6.4	UG	3.17% Zn	46 千 t Zn

2001 年主要権益保有製錬所及び鉱山による地金生産

オペレーション名	権益 %	粗金属生産量 千 t	地金生産量 千 t
サン・ルイス・ポトシ製錬所 (メキシコ) San Luis Potosí Refinery	100	-	107 Zn

- ・ 2001 年 2 月にアサルコ社は、コスト高のためイースト・ヘレナ製錬所を一時閉鎖すると発表した。
- ・ 2001 年 11 月にアサルコ社はテネシー州の 3 亜鉛鉱山全てを無期限に閉鎖した。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

グループ・メヒコ社の探鉱活動は、他の鉱業活動と同様に 2000 年末に米国に設立した子会社アメリカ・マイニング社 (Americas Mining Corporation: AMC) を通して行われている他、アサルコ社、SPCC 社のそれぞれも実施している

2001 年の探鉱予算は US\$32.5 百万で、主要非鉄金属企業中第 17 位であった。

(2) 対象鉱種

グループ・メヒコ社の探鉱はベースメタル、特に銅を中心としたもので、銅鉱床の探鉱に全体の 66% が充てられている。

(3) 対象地域・探鉱段階

グループ・メヒコ社の探鉱は中南米地域が中心であり、全体の 9 割を占める。

探鉱段階に関しては、2001 年の探鉱予算はグラス・ルーツに US\$12.0 百万 (37%)、事業化調査に US\$8.1 百万 (25%)、鉱山周辺探鉱に US\$12.4 百万 (38%) を充てており、グループ・メヒコ社の既存鉱山の鉱量拡大を目的とした探鉱戦略が現れている。



(4) 最近の動向

(メキシコ)

グループ・メヒコ社は、メキシコでは既存鉱山の鉱量拡大のため周辺探鉱や探鉱段階が進んでいるプロジェクトの探鉱に力を入れている。このようなプロジェクトとして、カナネア鉱山近辺の Buenavista 多金属鉱床（鉱量 36 百万 t、33% Zn、0.69 % Cu、29 g/t Ag）、ミチョアカン州の Angangueo 鉱床（鉱量 13.3 百万 t、1.10% Cu、3.5% Zn、0.75% Pb、0.17 g/t Au、248 g/t Ag）、ゲレロ州の Morelos プロジェクト等がある。

(ペルー)

ペルーでは、衛星画像解析によるプロジェクト発掘調査を行っている。また、開発に近いプロジェクトとして、Los Chancas 銅鉱床（鉱量 200 百万 t、1.0% Cu、0.07% Mo、0.12g/t Au）や Tantauaty 銅-金鉱床（SPCC 社権益 44%、鉱量 31.2 百万 t、0.78g/t Au、9.5 g/t Ag）がある。

(北米)

米国ではアサルコ社が主に既存鉱山の鉱量拡大のための探鉱を行っている。また、アサルコ社はカナダ・ユーコン準州の Minto 銅-金プロジェクトの権益を有しているが、金属価格の低迷のため、作業は遅れている。